

2024年3月期 第2四半期 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2023年11月6日

Copyright © 2023 Ushio Inc. All Rights Reserved

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。



ウシオ電機、経営統括本部長の朝日です。

本日ウェブサイトにて開示した決算資料にもとづき、2024年3月期 第2四半期決算の内容をご説明致します。

それでは、スライド2ページをご覧ください。

1. 2023年度 1H実績は **減収減益も、計画通り推移**
2. 2023年度 通期業績予想は **変更なし**
3. 中期経営計画のフォローアップ

本日、主に記載の3つについてご説明致します。

第2四半期の業績は、第1四半期決算同様に、前年同期比で減収減益となりましたが、全体的には概ね想定通りに推移しました。
従って、通期業績予想については変更はないものの、各事業において事業環境の変化が生じており、セグメント間での入り繰りが発生しています。
詳しくは後程、ご説明致します。

また、本日は、5月に公表した第2次中期経営計画のフォローアップも致します。

まず、第2四半期の業績についてご説明致します。
スライド4ページをご覧ください。

I. 2023年度 1H業績概要

II. 2023年度 通期業績予想

III. 中期経営計画のフォローアップ

IV. 参考資料

2023年度 1H : 業績サマリー

売上高

850億円

前年同期比 : 29億円減 (▲3.4%)

- 半導体及びFPD市況の悪化により、Industrial Process事業は減収
- 映画館向けデジタルシネマプロジェクター(DCP)の販売増加、及び部材不足解消と円安効果で、Visual Imaging事業は増収

EBITDA*

89億円

前年同期比 : 49億円減 (▲35.6%)

- 減収による減益
- 将来に向けた戦略投資(R&D・人財投資等)拡大

親会社株主に帰属する
四半期純利益

42億円

前年同期比 : 52億円減 (▲55.2%)

- 【営業外収支】為替差益 1億円 (2022年度 1H : 25億円)

* EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

4

第2四半期の業績サマリーです。

売上高は、3.4%減収の850億円となりました。

半導体及び液晶パネルの需要が前下期から落ち込み、その後も低調なまま推移していることから、露光用ランプが減収。

また、ICパッケージ基板に関わる露光装置においても、半導体市況の悪化による投資スケジュールの先送りや、今期の売上見込みが下期に偏っている影響もあり、インダストリアルプロセス事業は減収となりました。

一方、部材不足の緩和やサプライチェーンマネジメント改革が順調に進み、デジタルシネマプロジェクターの販売が増加。加えて円安効果もあり、ビジュアルイメージング事業は増収となりました。

EBITDAは35.6%減益の89億円となりました。

減収に加え、将来に向けた戦略投資を拡大していることにより減益となりました。

四半期純利益は、前期の為替差益減少もあり、55.2%減益の42億円となりました。

続いて、EBITDAの増減内容を、ステップチャートでご説明致します。

スライド6ページをご覧ください。

2023年度 1H : 財務ハイライト



単位：億円	2022年度 1H実績	2023年度 1H実績	前年同期比		
			増減額	増減率	
売上高	879	850	▲29	▲3.4%	
営業利益*1	101	49	▲51	▲50.9%	
営業利益率*1	11.5%	5.8%	▲5.6P	-	
EBITDA*2	139	89	▲49	▲35.6%	
EBITDAマージン	15.8%	10.6%	▲5.3P	-	
経常利益	136	62	▲73	▲53.9%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	95	42	▲52	▲55.2%	
EPS (円)	79.91	36.92	▲42.99	▲53.8%	
為替レート (円)	USD	132	140	+8	-
	EUR	138	153	+15	-

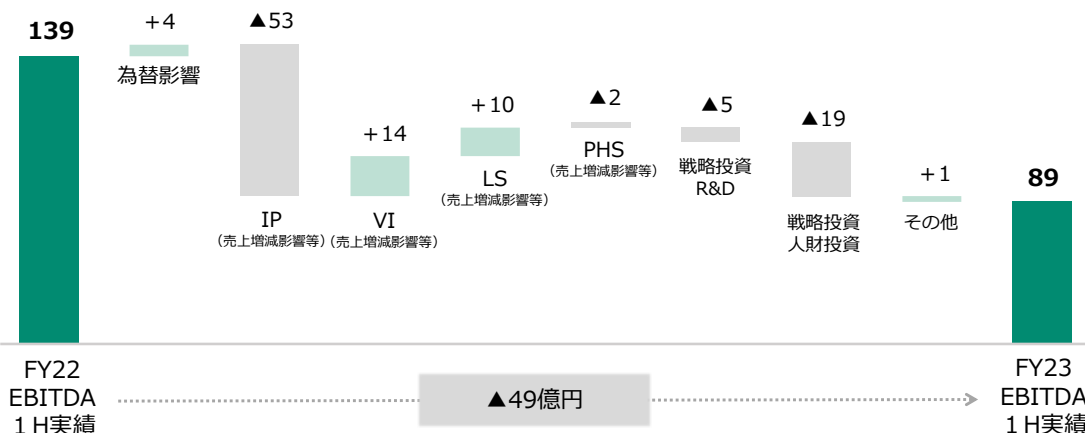
*1 2023年度_1Hで軽微な新規のれん償却を計上。調整後営業利益：50億円

*2 EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

5

2023年度 1H : EBITDA増減分析 (前年同期比)



EBITDA 49億円減益の主な内訳についてご説明致します。

まず、為替が円安で推移したことにより4億円の増益。

事業面では、売上増減により、インダストリアルプロセス事業が半導体や液晶パネル市況悪化の影響を受け、53億円の減益。

一方、ビジュアルイメージング事業やライフサイエンス事業では増益となりました。詳しくは、この後、セグメント別にご説明致します。

事業面以外では、将来に向けたR&Dや人財投資などの戦略投資を合計で24億円拡大させました。

続いて、セグメント別の業績をご説明致します。スライド7ページをご覧ください。

2023年度1H：セグメント別業績

USHIO

	単位：億円	2022年度 1H実績	2023年度 1H実績	前年同期比	
				増減額	増減率
Industrial Process	売上高	473	377	▲96	▲20.3%
	営業利益 (営業利益率)	109 (23.0%)	39 (10.4%)	▲69 (▲12.6P)	▲63.8%
Visual Imaging	売上高	322	388	+66	+20.7%
	営業利益 (営業利益率)	20 (6.4%)	30 (7.7%)	+9 (+1.3P)	+45.3%
Life Science	売上高	27	26	▲1	▲3.9%
	営業利益 (営業利益率)	▲28 (▲101.0%)	▲11 (▲44.5%)	+16 (+56.5P)	-
Photonics Solution	売上高	46	50	+3	+8.5%
	営業利益 (営業利益率)	0 (1.6%)	▲7 (▲13.9%)	▲7 (▲15.5P)	-
その他	売上高	9	6	▲2	▲31.8%
	営業利益 (営業利益率)	▲1 (▲16.0%)	▲1 (▲19.5%)	+0 (▲3.6P)	-
連結合計	売上高	879	850	▲29	▲3.4%
	営業利益 (営業利益率)	101 (11.5%)	49 (5.8%)	▲51 (▲5.6P)	▲50.9%

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

7

こちらが、セグメント別の結果となります。

次ページ以降で、詳しい内容についてご説明致します。

単位：億円	2022年度 1 H実績	2023年度 1 H実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	473	377	▲96	▲20.3%
営業利益	109	39	▲69	▲63.8%
営業利益率	23.0%	10.4%	▲12.6P	-
サブセグメント別売上高				
露光用ランプ	76	69	▲7	▲9.5% ③
OA用ランプ	32	27	▲4	▲14.5%
光学機器用ランプ	64	54	▲9	▲15.3%
光源事業合計	173	151	▲21	▲12.6%
露光装置	195	132	▲62	▲32.1% ①
光学装置その他	104	93	▲11	▲10.8% ②
光学装置事業合計	300	226	▲74	▲24.7%
Industrial Process事業合計	473	377	▲96	▲20.3%

■売上高：前年同期比 96億円減収

- 最終需要の減速や検収タイミングの下期偏重による影響 ①
- 液晶パネル向け装置及びEUVマスク検査用光源の販売が減少 ②
- 巣ごもり需要一巡及び半導体市況の悪化に伴う販売減少 ③

■営業利益：前年同期比 69億円減益

- 将来に向けた戦略投資(R&D等)拡大（主に光学装置）
- 高付加価値製品の販売減少により利益率が低下

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 8

インダストリアルプロセス事業は減収減益となりました。
売上高は、20.3%減収の377億円。営業利益は63.8%減益の39億円です。

減収の主な要因は、スマートフォンなどの最終製品の需要減速による半導体市況の低迷継続で、設備投資のスケジュール先送り傾向も強まりました。また、液晶パネルにおける巣ごもり需要も一巡。これらを背景に、最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置及びダイレクトイメージング露光装置の販売は減少。露光用ランプの販売も減少しました。なお、前期は露光装置の販売が第2四半期に集中したことも影響し、前年同期比の減収幅が大きくなっています。

EUVマスク検査用光源は、メンテナンス収入は増加したものの、前第2四半期に光源本体の売上があり、今期は販売がなかったため減収となりました。

続いて、営業利益の減益要因ですが、EUVや露光装置で将来成長に向けた戦略的な開発投資を拡大したこと。また、露光用ランプや露光装置など付加価値が高い製品の販売が減少したことにより、利益率が低下しました。

続いて、ビジュアルイメージング事業について、スライド9ページでご説明致します。

2023年度 1 H : Visual Imaging事業



単位：億円	2022年度 1 H実績	2023年度 1 H実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	322	388	+66	+20.7%
営業利益	20	30	+9	+45.3%
営業利益率	6.4%	7.7%	+1.3P	-
サブセグメント別売上高				
プロジェクター用ランプ	74	65	▲8	▲11.7% ③
照明用ランプ	14	15	+1	+8.0%
光源事業合計	88	81	▲7	▲8.5%
シネマ	87	146	+59	+67.8% ①
一般映像	145	160	+14	+10.1% ②
映像装置事業合計	233	307	+74	+31.7%
Visual Imaging事業合計	322	388	+66	+20.7%

■売上高：前年同期比 66億円増収

- 置き換え需要を取り込みDCPの販売が増加 ①
- 投資意欲が堅調及び2Qに大型案件の検収あり販売が増加 ②
- 一般映像向けプロジェクターの固体光源化加速で販売が減少 ③
- 円安効果で増収

■営業利益：前年同期比 9億円増益

- 部材価格高騰の影響緩和で原価率が改善
- 大型案件の増収による増益
- 将来のソリューション体制構築に向けた戦略投資の拡大

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 9

ビジュアルイメージング事業は増収増益となりました。
売上高は、20.7%増収の388億円。営業利益は、45.3%増益の30億円です。

増収の主な要因は、デジタルシネマプロジェクターにおいて、サプライチェーンマネジメント改革の進展、及び部材不足影響の緩和により、映画館での置き換え需要を取り込み、販売が拡大したこと。

また、一般映像分野では、イベントやアミューズメントパークなどの投資が堅調に推移したこと。加えて、当第2四半期で、大型案件を検収することができたことから販売が増加しました。

一方、プロジェクター用ランプは、固体光源化が加速し販売が減少しました。

営業利益は増収に伴い増益となりました。

部材不足の緩和により、部材価格は適正化が進んでおり、原価率は改善傾向です。また、一般映像の大型案件も増益に貢献しました。

一方、将来を見据えたソリューション体制構築に向け、戦略投資を拡大させています。

続いて、ライフサイエンス、フォトリソソリューション事業について、スライド10ページでご説明致します。

2023年度 1 H : Life Science事業 / Photonics Solution事業

Life Science事業

単位：億円	2022年度 1H実績	2023年度 1H実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	27	26	▲1	▲3.9%
営業利益	▲28	▲11	+16	-
営業利益率	▲101.0%	▲44.5%	+56.5P	-

■売上高：前年同期比 1億円減収

- 環境衛生向け光源の販売が減少

■営業利益：前年同期比 16億円増益

- 前期の棚卸資産評価損の減少及び環境衛生向けで投資抑制

Photonics Solution事業

単位：億円	2022年度 1H実績	2023年度 1H実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	46	50	+3	+8.5%
営業利益	0	▲7	▲7	-
営業利益率	1.6%	▲13.9%	▲15.5P	-

■売上高：前年同期比 3億円増収

- 研究開発用途で顕微鏡向けレーザーモジュールの販売が増加

■営業利益：前年同期比 7億円減益

- 将来に向けたR&D投資の戦略的拡大

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 10

ライフサイエンス事業は減収増益となりました。

売上高は、3.9%減収の26億円。営業利益は、16億円増益の11億円の赤字となりました。

減収の主な要因は、環境衛生向けCare222関連製品の販売が低調に推移したことです。一方、営業利益は、前第2四半期に計上した棚卸資産評価損が発生しないこと。また、環境衛生向けで、戦略変更による販売の選択と集中により投資を抑制したことから、増益となりました。

フォトニクスソリューション事業は、増収減益となりました。

売上高は8.5%増収の50億円、営業利益は7億円減益の7億円の赤字となりました。

増収の主な要因は、研究開発用途で顕微鏡向けレーザーモジュールの販売が増加したこと。

一方、営業利益は、将来のアプリケーション拡大に向けた開発費等の戦略的拡大により減益となりました。

以上が、第2四半期業績の説明となります。

続いて、通期業績見通しについてご説明致します。

スライド12ページをご覧ください。

I. 2023年度 1H業績概要

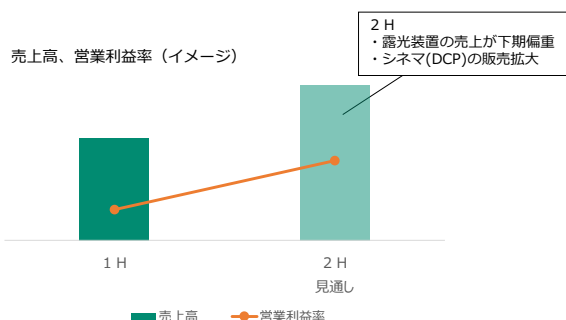
II. 2023年度 通期業績予想

III. 中期経営計画のフォローアップ

IV. 参考資料

■ポイント

- 事業環境変化によるセグメント間の見直しが発生も、**全社の通期業績予想は維持**
- 全事業で将来に向けた戦略投資拡大
- 露光装置の案件を中心に下期に集中



■係数 変更なし

- ・売上高 : 1,880億円
- ・EBITDA*1 : 210億円
EBITDAマージン 11.2%
- ・当期純利益 : 100億円
- ・ROE *2 : 4.3%
- ・配当予想 : 年間配当50円
- ・為替前提 : USドル 135円

(参考) 為替感応度：1円変動による影響額 (通期)
対USD 売上高：約12.0億円、営業利益：約1.3億円

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費
*2 ROEの目標値は、新規ののれん償却を除いて算出

通期業績予想は、全社ベースでは5月に公表したもののから変更はありません。ただし、各セグメントにおいて、事業環境の変化が発生しており、全社ベースでの通期業績は維持するものの、セグメント間での入り絡りが生じています。

また、上期業績の進捗率が売上高で約45%、営業利益で約40%となっていますが、これは下期に露光装置やデジタルシネマプロジェクターの販売増を見込んでいるためで、想定通りの進捗となっています。

続いて、各セグメントの状況についてご説明致します。
スライド14ページをご覧ください。

2023年度 通期業績予想：財務ハイライト



単位：億円	2022年度 実績	2023年度 予想	前期比		通期予想に対する 1H進捗率	
			増減額	増減率		
売上高	1,750	1,880	+129	+7.4%	45.2%	
営業利益*1	158	125	▲33	▲21.2%	39.8%	
営業利益率*1	9.1%	6.6%	▲2.4P	-	-	
EBITDA*2	236	210	▲26	▲11.2%	42.7%	
EBITDAマージン	13.5%	11.2%	▲2.3P	-	-	
経常利益	201	140	▲61	▲30.5%	44.9%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	136	100	▲36	▲27.0%	42.6%	
EPS (円)	115.69	90.58	▲25.11	▲21.7%	40.8%	
ROE*1	5.7%	4.3%	▲1.4P	-	-	
年間配当 (円)	50	50	-	-	-	
為替レート (円)	USD	135	135	▲0	-	-
	EUR	141	145	+4	-	-

*1 2023年度の営業利益、営業利益率及びROEの目標値は、新規ののれん償却を除いて算出

*2 EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

Copyright © 2023 Ushio Inc. All Rights Reserved 13

2023年度 通期業績予想：セグメント別業績予想 修正内容



単位：億円		今回*	前回* 2023.5.11	差異	主な修正内容
Industrial Process	売上高	810	860	▲50	▲ 露光装置で来期への期ズレを反映 ▲ EUV稼働低迷によるメンテナンス収入減 + 経費の見直し、「その他」から一部見直し
	営業利益 (営業利益率)	90 (11.1%)	110 (12.8%)	▲20 (▲1.7P)	
Visual Imaging	売上高	900	835	+65	+ DCP販売増加 + 大型案件の検収、製品ミックス良化 + 経費の見直し
	営業利益 (営業利益率)	65 (7.2%)	40 (4.8%)	+25 (+2.4P)	
Life Science	売上高	45	45	-	
	営業利益 (営業利益率)	▲20 (▲44.4%)	▲20 (▲44.4%)	-	
Photonics Solution	売上高	105	105	-	
	営業利益 (営業利益率)	▲10 (▲9.5%)	▲10 (▲9.5%)	-	
その他	売上高	20	35	▲15	▲ 「IP事業」へ一部見直し (売上高：▲15億円、営業利益：▲5億円)
	営業利益 (営業利益率)	0 (0.0%)	5 (14.3%)	▲5 (▲14.3P)	
連結合計	売上高	1,880	1,880	-	
	営業利益 (営業利益率)	125 (6.6%)	125 (6.6%)	-	

* 2023年度の営業利益及び営業利益率は、新規ののれん償却を除いて算出

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 14

各事業において事業環境の変化が発生しています。

まず、インダストリアルプロセス事業では、半導体市況の低迷が継続しており、露光装置の下期案件で期ズレが生じる見込みです。また、EUVマスク検査用光源においても、上期まで高く推移したメンテナンスの稼働が、下期は半導体市況の低迷を背景に低下する見込みです。これらを反映し、売上高、営業利益ともに下方修正をすることとなりました。

一方、ビジュアルイメージング事業は、デジタルシネマプロジェクターにて置き換え需要の取り込みにより販売が拡大していること。一般映像分野での大型案件を検収できたこと。また、ハイエンド機種であるレーザープロジェクターの販売割合が増加したことで製品ミックスの良化が進んでいることから、売上高、営業利益ともに上方修正しました。

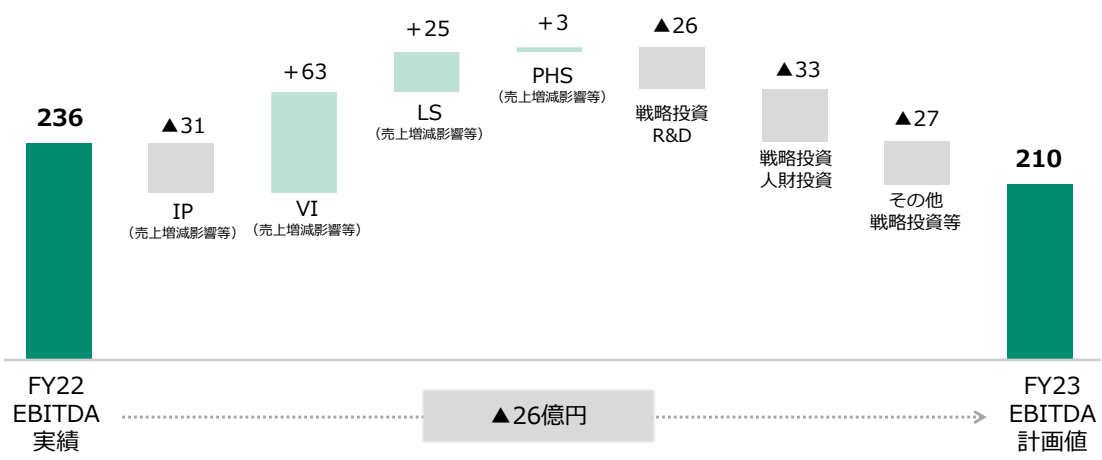
なお、これらの見直しに加え、経費の見直しも進めており、それも踏まえ、連結合計では期初の公表値を維持する考えです。

この変更に伴い、スライド15ページに掲載のEBITDAの前期比26億円減益の増減分析についても内訳に変更が生じていますので、後程ご覧いただければと思います。

続いて、今回の見直しを反映した各セグメント別の通期業績予想について、ポイントのみご説明致します。

スライド17ページをご覧ください。

2023年度 通期業績予想：EBITDA増減分析（前期比）



2023年度 通期業績予想：セグメント別業績

単位：億円		2022年度 実績 (参考値*1) 参考値の見直しをしています	2023年度 予想 (修正後*2)	前期比	
				増減額	増減率
Industrial Process	売上高	900	810	▲90	▲10.0%
	営業利益 (営業利益率)	184 (20.5%)	90 (11.1%)	▲94 (▲9.4P)	▲51.2%
Visual Imaging	売上高	683	900	+216	+31.7%
	営業利益 (営業利益率)	32 (4.8%)	65 (7.2%)	+32 (+2.4P)	+97.6%
Life Science	売上高	56	45	▲11	▲19.9%
	営業利益 (営業利益率)	▲51 (▲91.4%)	▲20 (▲44.4%)	+31 (+47.0P)	-
Photonics Solution	売上高	92	105	+12	+13.4%
	営業利益 (営業利益率)	▲2 (▲3.2%)	▲10 (▲9.5%)	▲7 (▲6.4P)	-
その他	売上高	17	20	+2	+14.1%
	営業利益 (営業利益率)	▲4 (▲26.9%)	0 (0.0%)	+4 (+26.9P)	-
連結合計	売上高	1,750	1,880	+129	+7.4%
	営業利益 (営業利益率)	158 (9.1%)	125 (6.6%)	▲33 (▲2.4P)	▲21.2%

*1 2022年度の各セグメント数値は、比較を目的に当社が作成した参考値

*2 2023年度の営業利益及び営業利益率は、新規ののれん償却を除いて算出

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 16

2023年度 通期業績予想 : Industrial Process事業

単位：億円	2022年度 実績 (参考値*)	2023年度 予想 (修正後)	前期比		通期予想 に対する 1H進捗率
			増減額	増減率	
売上高	900	810	▲90	▲10.0%	46.6%
営業利益	184	90	▲94	▲51.2%	43.9%
営業利益率	20.5%	11.1%	▲9.4P	-	-

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

1H進捗率に対する2Hコメント

- 半導体市況の低迷で、下期検収予定の露光装置で期ズレが生じるも、下期偏重の傾向は継続
- 2Hに戦略投資(R&D)拡大の見込み

■事業環境

全般的に不透明な景況感が継続

- 半導体市場は、最終製品の需要減速で稼働調整継続、回復は来期以降
- 最先端ICパッケージ基板市場は、足元で投資計画後ろ倒し傾向あるも、中長期での需要拡大を見込む
- FPD市場は、巣ごもり需要一巡で稼働が低下し、当面横ばいを見込む

■売上高：前期比 90億円減収

- 露光用ランプは、前期の市況好調の反動により減収を見込む
- 露光装置は、投資先送りによる検収の期ズレが生じ、減収を見込む
- EUVマスク検査用光源は、半導体市況悪化の影響で稼働が低迷しメンテナンス収入が減少、また、光源本体の販売減少による減収を見込む

■営業利益：前期比 94億円減益

- 将来の製品競争力強化に向けた戦略投資(R&D)拡大を見込む
- 高付加価値製品の販売減少による利益率の悪化を見込む

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 17

インダストリアルプロセス事業ですが、今期は期初の段階から前期比で減収減益となる計画でしたが、先ほどご説明した要因により、減収及び減益幅が大きくなっています。

今期は、年間通して半導体市況の低迷の影響を受ける見込みです。また、最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置及びダイレクトイメージング露光装置も、踊り場となり、かつ、来期への期ズレも発生することから、当初露光装置は横ばいを見込んでいましたが、販売は減少する見込みです。

また、将来に向けたR&D戦略投資も、下期以降、更に加速させる計画です。今期は厳しい状況ですが、半導体を中心に中長期では、確実に成長拡大すると見ていますので、そのために必要な投資を継続してまいります。

続いて、インダストリアルプロセス事業の主要製品について、詳しい最新状況をご説明致します。スライド18ページをご覧ください。

2023年度 Industrial Process事業の主要製品



項目	最新の状況	売上高推移
最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置	<ul style="list-style-type: none"> ICパッケージ基板市場は、中長期での成長拡大は変わらずも、投資スケジュール後ろ倒しの傾向あり => FY23：一部検収期ズレ発生 FY24以降：精査中も成長拡大の見込み 生産能力増強は、段階的に進めていくものの、市況の変化により当初計画よりスケジュールは後ろ倒し 次世代露光機へ開発投資継続（高生産性×微細化） 	
ダイレクトイメージング露光装置	<ul style="list-style-type: none"> ICパッケージ・プリント基板市場は、中長期での成長拡大は変わらずも、最終製品の需要減速により投資スケジュール後ろ倒しの傾向あり => FY23：一部検収期ズレ発生 FY24以降：精査中も成長拡大の見込み 高解像力モデル(2µm L/S)販売開始、2023年度より業績貢献 ターゲット：最先端ICパッケージ (Fan-out)、有機パッケージ基板市場等 	
EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源	<ul style="list-style-type: none"> EUVマスク検査市場は、中長期で成長し、高輝度APMI*の本格採用は2025年以降を見込むも、半導体市況悪化でスケジュールは後ろ倒し傾向 新規顧客獲得への取り組みは着実に進展も、スケジュールは後ろ倒し傾向 半導体市況の悪化で、足元の稼働が低下。今後の影響を精査中 TCO低減や今後のHi-NA対応のための戦略投資拡大により、採用機会拡大を目指す 	

*APMI：Actinic Patterned Mask Defect Inspection（EUV光を使ったマスク欠陥検査装置）

まず、3製品共通して、半導体市況低迷が長期化していることにより、投資スケジュール見直しによる投資先送りや稼働低下などが更に強まっている状況にあります。これにより、いずれにおいても、全体的にスケジュールが後倒しとなります。

最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置では、今期の一部検収が来期にずれ込むことが確実となりました。また、来期以降も影響がどの程度であるか、現在精査を進めています。

ただし、中長期でパッケージ需要は着実に成長拡大すると見込んでおり、競争優位性を維持するための取り組みは継続していきます。

ダイレクトイメージング露光装置においても同様な状況にありますが、将来に向けた取り組みは継続します。

EUVマスク検査用光源についても、半導体市況の悪化を受けて稼働低下が生じており、下期のメンテナンス収入が減少する見込みです。来期以降の影響は現在精査中ですが、新規顧客獲得への取り組みは着実に進展しており、引き続き、今後の採用拡大に向け進めてまいります。

以上の点を反映し、2023年度の各売上高グラフは修正を入れています。

続いて、スライド19ページをご覧ください。

2023年度 通期業績予想 : Visual Imaging事業

単位 : 億円	2022年度 実績 (参考値*)	2023年度 予想 (修正後)	前期比		通期予想 に対する 1H進捗率
			増減額	増減率	
売上高	683	900	+216	+31.7%	43.2%
営業利益	32	65	+32	+97.6%	46.2%
営業利益率	4.8%	7.2%	+2.4P	-	-

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

1H進捗率に対する2Hコメント

- ・ 部材不足の解消が進み、下期の販売は拡大
- ・ 2Qに一般映像市場向けで大型案件あり
- ・ 3Qより戦略投資(人財投資等)が拡大

■事業環境

- コロナから回復、部材不足緩和へ 一方、中国経済影響を注視
- シネマ市場は、DCPの置き換え需要が本格化、また中国で稼働回復
 - 一般映像市場は、イベントやテーマパークなどの設備投資が堅調
 - 中国経済の悪化による投資意欲減退の影響を注視

■売上高 : 前期比 216億円増収

- SCM改革、部材不足緩和及び映画館のDCP置き換え需要の取り込みで販売増加を見込む
- 一般映像機器は、需要が堅調かつハイエンド機種強化で販売増加を見込む
- プロジェクター用ランプは、固体光源化影響で販売減少を見込む

■営業利益 : 前期比 32億円増益

- 増収効果に加え、SCM改革や部材不足緩和による収益率改善を見込む
- 将来のソリューション体制構築に向けた戦略投資拡大を見込む

ビジュアルイメージング事業は、前期比で増収増益となる計画です。

第2四半期の業績でご説明した通り、順調に業績の回復が進んでおり、下期にかけても改善が進む見込みです。

一方、ソリューション体制構築等に向けた戦略投資は、下期以降増加する見込みです。また、中国経済悪化の影響やハリウッドで生じているストライキの影響など、まだ顕在化していないリスクもあり、引き続き注視してまいります。

シネマ及び一般映像の詳しい最新状況は、スライド20ページに記載していますので、後程、ご覧ください。

また、ライフサイエンス事業、フォトニクスソリューション事業については、前回第1四半期でご説明した内容から変化はありませんので、後程、スライド21ページをご確認いただければと思います。

続いて、スライド22ページをご覧ください。

2023年度 Visual Imaging事業の主要マーケット



項目	最新の状況	プロジェクター売上高推移
シネマ市場	<ul style="list-style-type: none"> シネマ市場は中国が回復したことで、概ねコロナ前の稼働率へ回復 2023年以降のDCP置き換え需要拡大を見込む 部材不足は解消傾向 2023年度のDCPの年間販売台数は前年比で約9割増を見込む 	<p>(USDルベース)</p> <p>■ ランプ ■ RGBレーザー</p>
一般映像市場	<ul style="list-style-type: none"> イベントやテーマパークなどで複雑な大規模演出用途が拡大 最先端の映像演出を求め、投資は拡大傾向 新技術の取り入れなど付加価値重視の市場へ 2023年度のプロジェクター年間販売台数は前年比で横ばいも、付加価値の高いRGB機種種の割合が増加 中国経済悪化による投資意欲減退の影響を注視 	<p>(USDルベース)</p> <p>■ ランプ 他 ■ レーザー ■ RGBレーザー</p>

2023年度 通期業績予想 : Life Science事業 / Photonics Solution事業

Life Science事業

単位：億円	2022年度 実績 (参考値*)	2023年度 予想 (修正後)	前期比		通期予想 に対する 1H進捗率
			増減額	増減率	
売上高	56	45	▲11	▲19.9%	59.7%
営業利益	▲51	▲20	+31	-	59.8%
営業利益率	▲91.4%	▲44.4%	+47.0P	-	-

1H進捗率に対する2Hコメント

- 戦略投資、業績ともに計画通りに進捗

■事業環境

医療業界で光を使った機器需要が緩やかに伸長

■売上高：前期比 11億円減収

- 環境衛生向けで戦略変更による減収を見込む

■営業利益：前期比 31億円増益

- 前期の棚卸資産評価損の減少及び環境衛生向け販売投資の集中・抑制による増益を見込む

Photonics Solution事業

単位：億円	2022年度 実績 (参考値*)	2023年度 予想 (修正後)	前期比		通期予想 に対する 1H進捗率
			増減額	増減率	
売上高	92	105	+12	+13.4%	48.2%
営業利益	▲2	▲10	▲7	-	70.4%
営業利益率	▲3.2%	▲9.5%	▲6.4P	-	-

1H進捗率に対する2Hコメント

- R&D投資の戦略的拡大、業績ともに計画通りに推移

■事業環境

光源の固体光源化及びエネルギー効率向上の動きにより堅調に推移

■売上高：前期比 12億円増収

- メディカルヘルスや産業用センサー市場などでの販売増加を見込む

■営業利益：前期比 7億円減益

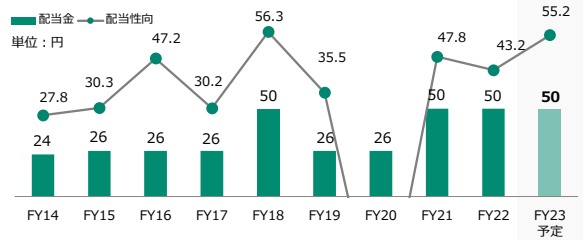
- フォトニクスアプリケーション向けR&D投資拡大を見込む

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

1株当たり
期末配当額

【配当方針】

安定的な配当

2023年度は **50円/年** を継続

自社株買い

【自己株式取得の方針】

機動的に実施

なお、保有する自己株式は、発行済株式総数の5%を上限とし、発行済株式総数の5%を上回る部分については毎年消却を実施

2023年5月11日リリース

取得期間：2023年5月29日～2024年5月10日

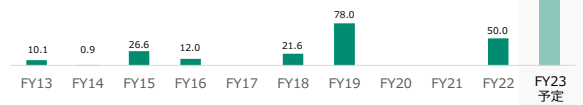
買付予定金額： **300億円 (上限)**買付予定株数： **2,000万株 (上限)**

自社株式取得は順調に進展

2023年10月31日時点の買い付け状況 (累計)

買付金額 **161.7億円**、買付株数 **859.7万株**

単位：億円



株主還元ですが、こちらも期初公表時から変更はなく、自社株取得も順調に進んでいます。この後の第2次中期経営計画のフォローアップでも触れさせていただきます。

続いて、第2次中期経営計画のフォローアップについて、ご説明致します。
スライド24ページをご覧ください。

- I. 2023年度 1H業績概要
- II. 2023年度 通期業績予想
- III. 中期経営計画のフォローアップ
- IV. 参考資料

今期の投資家等との対話における関心事と対応状況について

対話の主なテーマ

- 当社を取り巻く市場環境
- 決算の実績及び見通し
- セグメント別及び地域別の状況等
- 中長期の経営戦略
- 資本政策

直近の主な関心事（投資家等からの要望事項等）

要望事項等	対応状況（予定含む）
PBR 1 倍超への取り組み	▶ 取締役会の議論を経て、2023年5月公表の中期経営計画でPBR 1 倍超を目指し、「事業戦略」と「資本政策」の両輪での取り組みを説明
中期経営計画の進捗	▶ 毎年度末決算において、1年間の振り返りと進捗を決算説明会を通じ説明
成長（事業）戦略に対するより具体性をもった説明	▶ 「戦略投資」の内訳や効果など、対話を通じて十分な理解が得られていない点について、取締役会として対応方針を複数回議論 また、具体性を持った説明の実施に向け戦略の再点検を実行中。その内容・方法・時期について並行して検討中

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 24

5月に公表した第2次中期経営計画のフォローアップをさせていただきます。

まずは、投資家等との対話状況について、ご説明致します。

投資家の皆様との主な対話テーマは記載の通りですが、第2次中期経営計画に対し、様々なご指摘をいただいています。

特に成長戦略に対する、より具体性をもった説明を求めらるご指摘を多くいただいております。取締役会にて対応方針を複数回議論しています。具体性をもった説明の実施に向け、戦略の再点検を行っており、皆様への説明の内容や方法、時期について並行して検討しております。

続いて、スライド25ページをご覧ください。

成長投資 400億円+a の主な内訳

※成長戦略再点検により変更の場合あり

USHIO

M&Aや企業提携等のための出資など

将来の事業拡大に必要な事業提携等の推進

新規事業創出への投資

新規事業創出に向けた試作機開発などへの投資強化

IT・DX関連の強化への投資

連結経営推進の基礎となる基幹システム構築等への投資強化及びシステムの更新などへの投資

映像関連事業の再構築に向けた投資

シネマ/一般映像向けプロジェクター

今後のシネマ市場での置き換え需要及び拡大する一般映像向けプロジェクター需要を見据えた生産体制強化（設備更新、品質改善）付加価値向上のための投資拡大（ソフトウェア投資など）



Christie Digital Systems

VI

半導体関連製品（有望製品）への投資

IP

最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置／ダイレクトイメージング露光装置

今後のICパッケージ基板市場の拡大を見据えた、各露光装置の競争力維持・強化のための生産能力拡大及び関連する設備更新などへの投資強化

EUVマスク検査用光源

EUVプロセスの増加を背景としたEUVマスク検査市場拡大に向け、保守メンテナンス体制の構築・強化に向けた投資拡大



御殿場事業所



アドテックエンジニアリング（長岡事業所）

今後の成長・拡大が見込まれる光源への投資

露光用ランプ

今後の成長が見込まれる半導体・FPD向け露光用ランプの競争力維持のための生産設備更新

IP

固体光源

製品ラインナップ強化、競争力強化のための生産体制確立への投資

PHS



播磨事業所



京都事業所

Copyright © 2023 Ushio Inc. All Rights Reserved 25

中期経営計画で示した成長投資400億円+aの主な内訳をご説明致します。

インダストリアルプロセス事業に関連する投資が約半数を占めており、今後の成長が見込まれる分野において、競争優位性を維持・向上させるための投資が主な内容となっています。

次に来るのが、ビジュアルイメージング事業や新規事業創出への投資となります。その他、事業成長・拡大に必要なM&Aや事業提携などの出資のための投資も積極的に行う方針です。具体例としましては、少額ではありますが、ここまでに、将来の半導体等検査用途で有望な光源である半導体フォトカソード技術への出資を行いました。

続いて、スライド26ページをご覧ください。

戦略投資(R&D) 460億円の主な内訳

※成長戦略再点検により変更の場合あり

USHIO

映像事業の付加価値向上に向けた投資

VI

映像ビジネス付加価値向上
ラインナップ拡充、コスト競争力向上のための
開発投資



新規事業創出に向けた投資

社会課題解決に向けた新規事業創出
SDGsなどの社会課題に対する「光」ソリューション
提供による解決を目的とした新規事業創出への取り組み
(マーケティング、基礎研究、試作機開発など)



光源の新たな用途開拓への投資

ランプの新たな市場開拓

今後、市場拡大が見込まれる半導体サーマルプロセス（熱処理工程）
での採用拡大に向けた光源開発及び環境衛生向けに新たな顧客
（市場）開拓のための開発投資を拡大



IP

固体光源の開発

新たな用途開拓*に向けた固体光源（LED/LD）の製品ラインナップ
（波長域の拡大、出力向上など）強化に向けた開発投資を拡大
*AR/VR向け、高度化する医療機器向け など



PHS

半導体市場向け有望製品への投資

IP

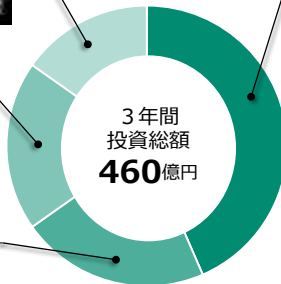
最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置/ ダイレクトイメージング露光装置

AIや5G、IoTなどの進展に伴う半導体需要の増加及び省電力化や高機能化
に向けた半導体パッケージ基板の進化（微細化やチップレット化など多彩な
形体）に対応し、高シェアを維持するための開発投資を拡大



EUVマスク検査用光源

今後のEUVリソグラフィプロセスの増加やHi-NA化を見据えた高度な
マスク検査用途での採用に向けた課題克服及び性能向上へ開発投資を拡大



Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 26

戦略投資R&Dの中期経営計画3年間の総投資額460億円の内訳を示しています。

先ほどの「成長投資」同様、インダストリアルプロセス事業の投資で半分強を占めています。半導体の最先端技術の進化スピードは早く、今後も半導体の最先端の進化に関わり続けることができるよう、製品技術力強化のための開発投資を積極的に行ってまいります。

なお、今ご説明した成長投資及び戦略投資については、取締役会を交えた戦略の再点検を経て、今後、見直しとなる可能性があります。

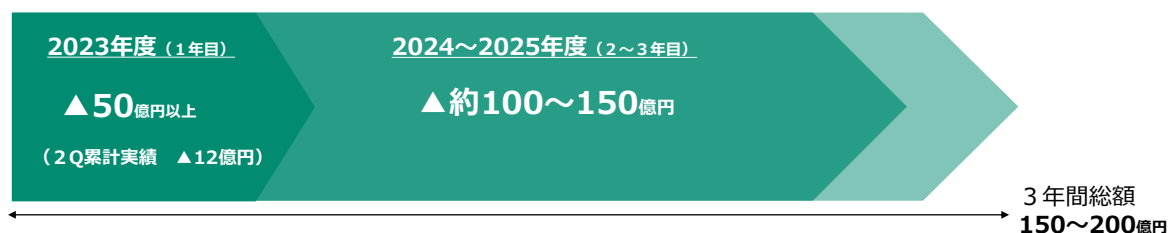
続いて、スライド27ページをご覧ください。

資産売却の内容とスケジュール

資産売却に含まれる主な対象資産

有価証券（投資有価証券含む）： 政策保有株式、長期債券及び純投資株式

売却スケジュール（予定含む）



売却によるキャッシュの用途

将来に向けた成長投資・戦略投資及び資本効率改善に向けた自社株投資等の株主還元

中期経営計画の中で、成長投資や株主還元に必要なキャッシュを資産売却150~200億円などから充当する計画を示しましたが、資産売却の内容とスケジュールをご説明致します。

まず、資産売却の対象は、「投資有価証券」の売却を想定しており、具体的には、投資有価証券に含まれる、政策保有株式や長期債券、純投資株式となります。

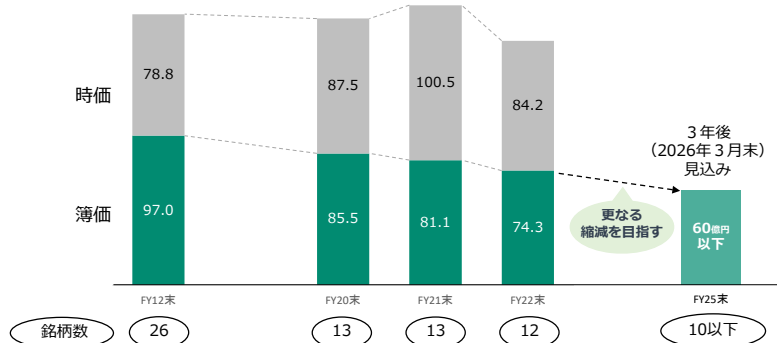
売却スケジュールは、今期2023年度中の売却により約50億円のキャッシュインを想定しています。また、その後の2024年度、2025年度の2年間で約100~150億円のキャッシュインを想定した売却を進めてまいります。

続いて、スライド28ページをご覧ください。

政策保有株式の縮減の状況

政策保有株式の保有推移

単位：億円



政策保有株式の縮減によるキャッシュの使途

将来に向けた成長投資・戦略投資及び資本効率改善に向けた自社株投資等の株主還元

政策保有株式の方針

当社は、事業上重要な取引先との関係維持・強化により、当社グループの中長期的な企業価値の向上を目的として、かかる取引先の株式を政策的に保有しております。

政策保有株式については、取締役会で定期的に検証しており、政策保有先ごとに、配当金や取引額からなる中長期的な経済合理性や当社グループの事業戦略等の観点から中長期的な企業価値の向上という目的に資するかどうかを総合的に判断し、保有意義の薄れた株式については政策保有先の状況等を勘案したうえで売却を進めるものとしています。

政策保有株式に関する議決権の行使については、当社グループ及び政策保有先の中長期的な企業価値の向上という観点に立ち、すべての議案内容を精査したうえで、議案ごとの賛否を適正に判断しております。組織再編などにより、株主価値が大きく毀損される事態や社会的不祥事等コーポレートガバナンス上の重大な懸念事項が生じている場合には反対いたします。当社の株式を保有する政策保有株主から売却の意向が示された場合、取引の縮減を示唆する等の売却を妨げることは一切行っており、適切に売却等に対応しております。

今ご説明した政策保有株式の縮減状況について、ご説明致します。

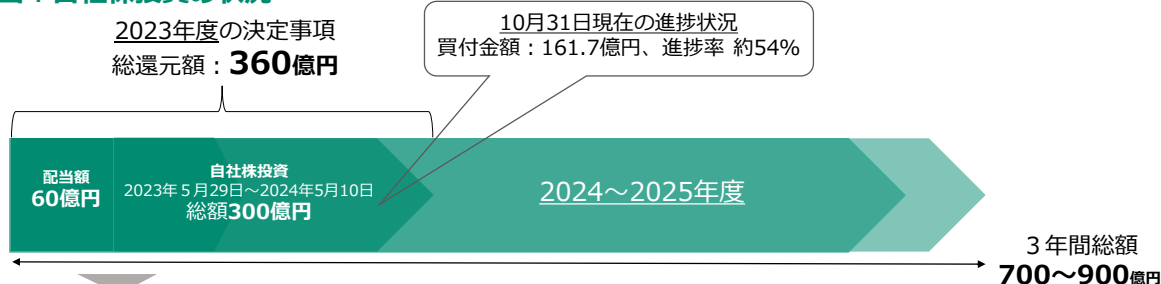
政策保有株式の方針として縮減を掲げていますが、10年前の2012年度末と比較し、保有銘柄数は半分以下へ。また、ここ3年間で簿価ベースでの保有額の縮減を進めてきました。

第2次中期経営計画期間での更なる売却を通じ、2026年3月末には簿価ベースで60億円以下。銘柄数も10社以下とする考えです。

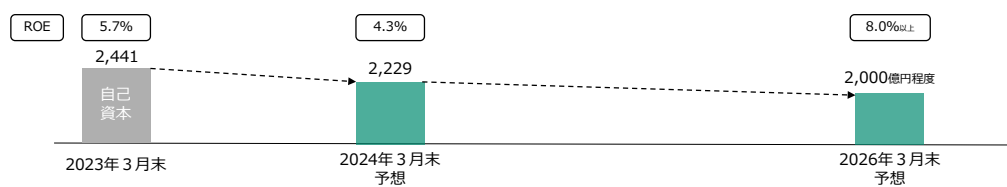
続いて、スライド29ページをご覧ください。

中期経営計画における自社株投資及び配当700～900億円のスケジュール及び進捗

配当 + 自社株投資の状況



自己資本適正化に向けたスケジュール



第2次中期経営計画の3年間で、自社株投資及び配当により700～900億円の投資及び還元を行うことを発表しましたが、その進捗状況をご説明致します。

当中期経営計画初年度である2023年度において、配当額60億円、自社株投資300億円のトータル360億円を実施することを決定しました。この自社株投資300億円は、株式市場の流動性を鑑み、約1年間で最大限実施できる規模で公表させていただきました。買付状況ですが、10月31日現在で進捗率は約54%に達し、順調に進んでいます。

これらの取り組みを通じ、自己資本の適正化を進め、当中期経営計画最終年度の2025年度はROE 8%以上。また、当中期経営計画期間中のPBR 1倍超の達成を目指してまいります。

私からの説明は以上となります。

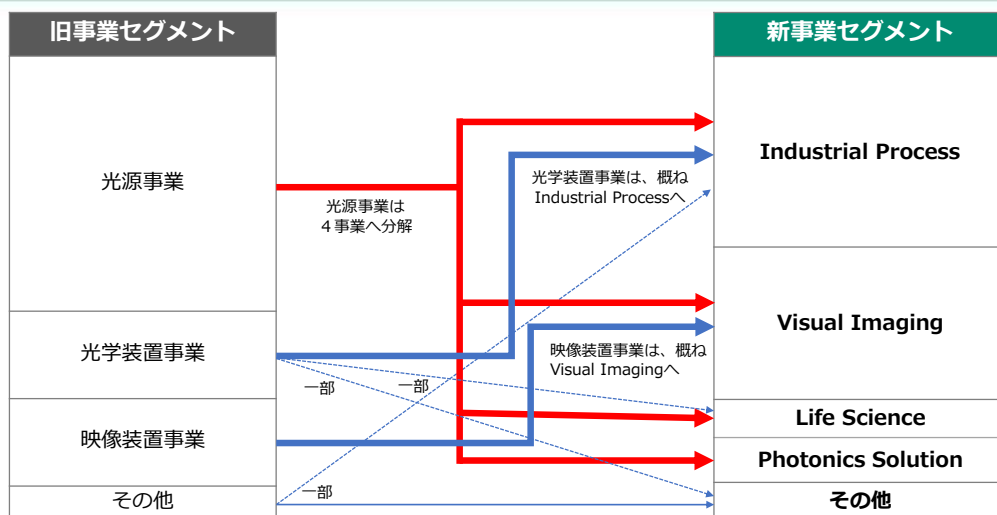
- I. 2023年度 1H業績概要
- II. 2023年度 通期業績予想
- III. 中期経営計画のフォローアップ
- IV. 参考資料

(新) 事業セグメントと主な製品



事業セグメント	主要事業・製品	製品例					
Industrial Process	光源： 露光用ランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他 装置： 露光装置、キュア装置、EUVマスク検査用光源、保守メンテナンスサービス他	 露光用ランプ	 OA用ランプ	 投影露光装置	 ダイレクトイメージング露光装置	 EUVマスク検査用EUV光源	
Visual Imaging	光源： シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他 装置： デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他	 シネマ用ランプ	 データプロジェクター用ランプ	 デジタルシネマプロジェクター	 一般映像用プロジェクター	 ディスプレイLEDウォール	 映像周辺機器
Life Science	光源：「Care222®」搭載製品他 装置：紫外線治療機器他	 抗ウイルス・除菌技術「Care222®」搭載製品	 紫外線治療機器「セラビームシリーズ」				
Photonics Solution	光源：固体光源	 固体光源 (LD/LED)	 レーザーモジュール				

参考：報告セグメント区分変更



サブセグメント別の新旧関連図はスライド33~34を参照ください

参考：セグメント区分変更（旧光源事業 → 新事業セグメント）

旧事業セグメント			新事業セグメント		
報告セグメント	サブセグメント		サブセグメント		報告セグメント
光源事業	ハロゲンランプ	●OA	●露光用ランプ	光源事業	Industrial Process
		●照明	●OA用ランプ		
		●その他	●光学機器用ランプ		
	放電ランプ	●UVランプ	●露光装置	光学装置事業	
		●映画館	●光学装置その他		
		●データプロジェクター	●プロジェクター用ランプ	光源事業	
		●光学機器	●照明用ランプ		
		●その他	●シネマ		
	●固体光源	●一般映像	映像装置事業		
	●UV装置	●ライフサイエンス用製品		光源事業 光学装置事業	
光学装置事業	●キュア装置	●シネマ	光源事業	Visual Imaging	
	●その他	●一般映像			
映像装置事業	●シネマ	●固体光源	光源事業	Life Science	
	●一般映像	●その他			
その他	●照明装置他	●その他	光源事業	Photonic Solution	
	●産業機械その他	●その他			光学装置事業

→ 1対1で紐づけできるもの

→ 分解又は集約が必要なもの

参考：セグメント区分変更（旧光学装置・映像装置・その他事業 → 新事業セグメント）

旧事業セグメント			新事業セグメント		
報告セグメント	サブセグメント		サブセグメント		報告セグメント
光源事業	ハロゲンランプ	●OA	●露光用ランプ	光源事業	Industrial Process
		●照明	●OA用ランプ		
		●その他	●光学機器用ランプ		
	放電ランプ	●UVランプ	●露光装置	光学装置事業	
		●映画館	●光学装置その他		
		●データプロジェクター	●プロジェクター用ランプ	光源事業	
		●光学機器	●照明用ランプ		
		●その他	●シネマ	映像装置事業	
		●固体光源	●一般映像		
	光学装置事業	●UV装置	●シネマ	●ライフサイエンス用製品	
	●キユア装置	●一般映像	●固体光源	光源事業	Photonics Solution
	●その他	●照明装置他	●その他	光学装置事業	その他
映像装置事業	●シネマ	●産業機械その他			
	●一般映像				
	●照明装置他				
その他	●産業機械その他				

→ 1対1で紐づけできるもの → 分解又は集約が必要なもの





次世代半導体量産用EUV光源
開発/生産/販売

光源販売
メンテナンス

マスク検査装置メーカー
研究開発機関

半導体デバイスメーカー等



(提供: TNO)



EUVリソグラフィの技術開発進展による次世代半導体の量産化ニーズ

検査、開発用光源のニーズ増大
ウシオのEUV光源が貢献



マスク検査用EUV光源需要増加
メンテナンス機会の増加

ウシオのEUV光源開発の歴史

- 2000年 EUV光源開発開始
- 2001年 EUVA*設立、参画
- 2013年 リソグラフィ用途から撤退
- 2016年 オランダ研究機関TNOへEUV光源納入
- 2018年 検査用（評価用）初号機納入
- 2019年 量産ライン用初号機納入、検収

*極端紫外線露光システム開発機構

■ウシオの強み

半導体業界での長いビジネス経験

+

長年積み重ねたEUV技術
(コンパクト/高輝度/高出力)

USHIO

最先端ICパッケージ基板向け
分割投影露光装置 (UX-5)
製造、販売

■世界シェア：90%*

*最先端ICパッケージ基板市場
(ステッパ露光機市場)



最先端・次世代パッケージ
需要拡大

装置
販売

パッケージ基板
メーカー

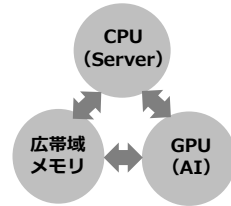
チップ実装
サーバー搭載

IoT進展に伴う大容量かつ高速データ処理用
データセンター向けサーバーの需要増加

データセンター市場：年率20%以上成長（自社調べ）
⇒ 次世代パッケージ基板の採用拡大

■ウシオの強み

1. 大面積一括投影露光
→ 高生産性、低CoO
2. マスクワーク非接触
→ 歩留まり向上
3. 広い焦点深度
→ プロセスマージン・基板反り対応
4. 高い解像力・重ね合わせ精度
→ 配線ピッチ微細化、プロセスマージン





ダイレクトイメージング露光装置

開発・製造・販売

微細化対応

高生産性

■世界シェア：50%*

*ICパッケージ基板市場
(D1露光機市場)



アプリケーションの革新に対応した
プリント配線板需要の増加

装置
販売

プリント配線板 パッケージ基板 メーカー

高密度化

多層化

■ウシオの強み

高解像力(ハイエンド)
世界最速の高生産性(ミドルエンド)
+
顧客本位の保守サポート能力

基板
搭載

5G導入による
各種アプリケーションの革新と需要の増加

データセンター
基地局
需要増

スマートフォン
通信機器
需要増

車載
需要増

5Gサービス
世界各国で
開始・拡大

消費電力対応
小型化対応

- 最先端半導体のFOパッケージ、有機パッケージ基板（先端BGA）などに向けた直描式露光装置を開発
リリース全文（2021年7月12日発表）：
<https://www.ushio.co.jp/news/1002/2021-2021/500818.html>



四半期推移《損益》

単位：億円	2022年度				2023年度		前年同期比		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増減額	増減率	
売上高	397	482	404	466	392	457	▲25	▲5.2%	
営業利益	44	56	34	23	20	29	▲27	▲48.3%	
営業利益率	11.3%	11.7%	8.5%	5.0%	5.2%	6.4%	▲5.3P	-	
EBITDA*	63	76	53	43	39	50	▲25	▲34.2%	
EBITDAマージン	15.9%	15.8%	13.2%	9.4%	10.1%	11.0%	▲4.8P	-	
経常利益	62	73	43	21	28	34	▲38	▲52.9%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	38	56	25	16	17	24	▲31	▲56.4%	
EPS (円)	32.18	47.87	21.80	13.78	15.36	21.65	▲26.22	▲54.8%	
為替レート (円)	USD	127	137	144	133	136	144	+7	-
	EUR	137	140	144	143	148	158	+18	-

* EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

四半期推移《セグメント別損益》

	単位：億円	2022年度				2023年度		前年同期比	
		1Q	2Q	3Q 参考値*	4Q 参考値*	1Q	2Q	増減額	増減率
Industrial Process	売上高	198	275	193	233	174	203	▲72	▲26.2%
	営業利益	39	69	41	33	22	17	▲52	▲75.6%
	営業利益率	19.8%	25.4%	21.4%	14.5%	12.9%	8.4%	▲17.0P	-
Visual Imaging	売上高	155	166	174	187	176	212	+45	+27.6%
	営業利益	12	8	6	5	6	23	+15	+177.8%
	営業利益率	7.8%	5.2%	3.6%	3.1%	3.5%	11.2%	+6.1P	-
Life Science	売上高	14	13	12	15	13	13	▲0	▲3.8%
	営業利益	▲6	▲21	▲11	▲11	▲4	▲7	+13	-
	営業利益率	▲47.5%	▲158.3%	▲93.3%	▲73.0%	▲32.7%	▲57.1%	+101.2P	-
Photonics Solution	売上高	23	23	20	25	25	25	+2	+10.5%
	営業利益	1	▲0	▲1	▲1	▲3	▲3	▲3	-
	営業利益率	6.1%	▲3.0%	▲9.1%	▲7.1%	▲12.9%	▲14.9%	▲11.9P	-
その他	売上高	4	4	3	4	2	3	▲0	▲19.2%
	営業利益	▲1	▲0	▲0	▲3	▲0	▲0	▲0	-
	営業利益率	▲26.5%	▲3.5%	▲6.1%	▲63.5%	▲22.9%	▲16.7%	▲13.2P	-
連結合計	売上高	397	482	404	466	392	457	▲25	▲5.2%
	営業利益	44	56	34	23	20	29	▲27	▲48.3%
	営業利益率	11.3%	11.7%	8.5%	5.0%	5.2%	6.4%	▲5.3P	-

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

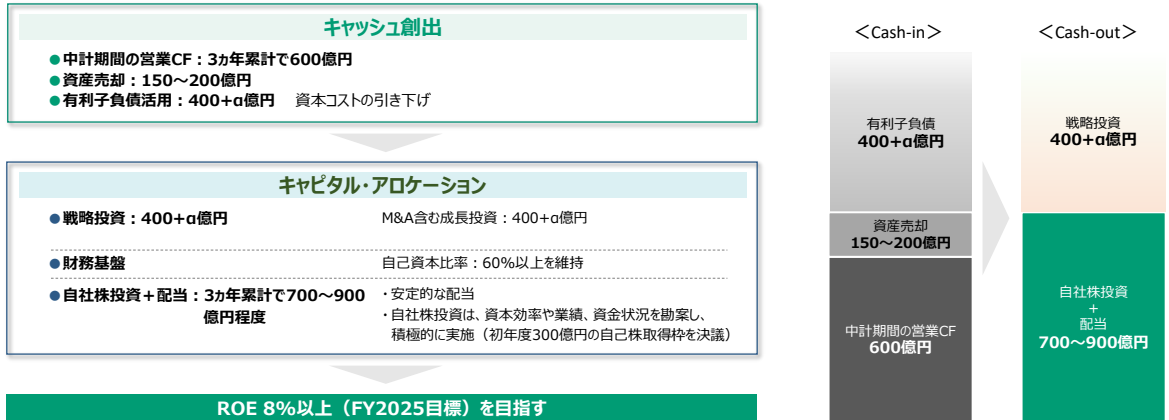
40

キャッシュアロケーション戦略

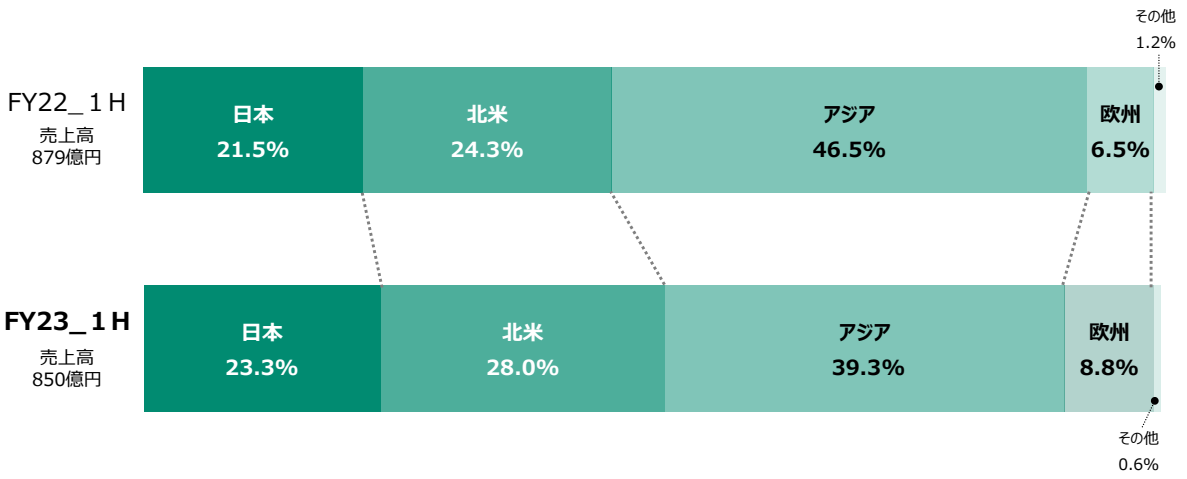
2023年5月公表の
中期経営計画より再掲



2023~25年度の3年間 : 自社株投資と成長投資への大規模な配分により資本効率の改善を目指す



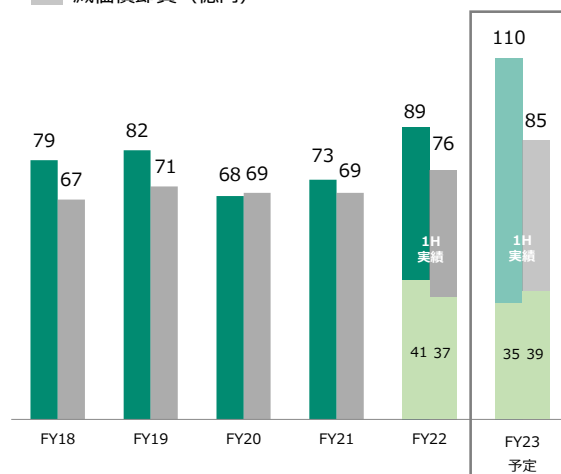
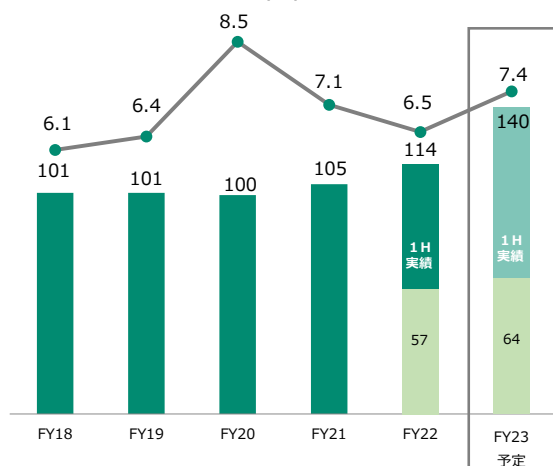
地域別売上高比率



研究開発費／設備投資額・減価償却費

■ 研究開発費（億円）
 — 売上高研究開発費率（%）

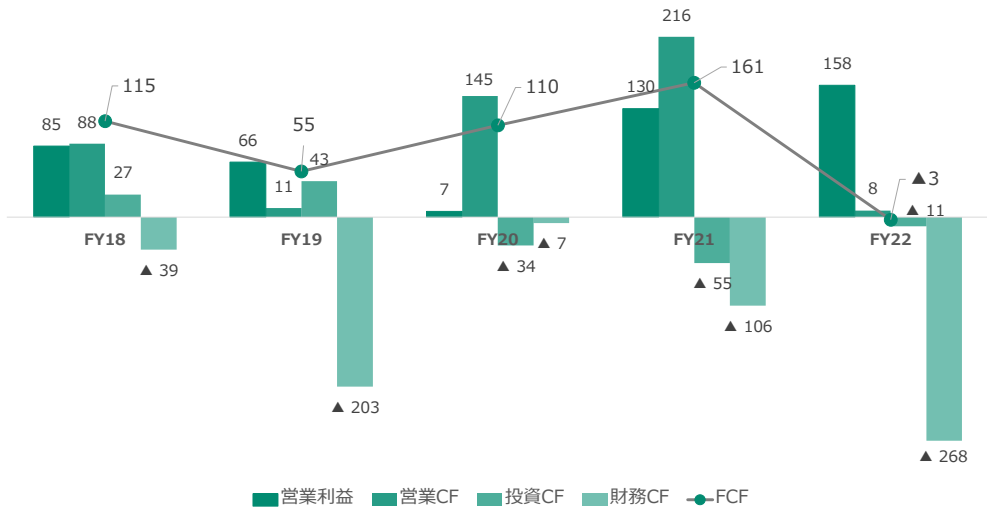
■ 設備投資額（億円）
 ■ 減価償却費（億円）



キャッシュフロー推移



単位：億円



AI	Artificial Intelligence	人工知能
APMI	Actinic Patterned Mask Defect Inspection	EUV光を使ったマスク欠陥検査装置
BGA	Ball Grid Array	半田ボールを格子状に並べた電極形状をもったパッケージ基板
CoO	Cost of Ownership	導入コストやメンテナンスコストなどを含めた、使用者（オーナー）が負担するコスト
CPU	Central Processing Unit	中央演算処理装置
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
GPU	Graphic Processing Unit	画像を表示するために必要な計算を行う半導体装置
IoT	Internet of Things	モノがインターネット経由で通信すること
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
TNO	The Netherlands Organization of Applied Scientific Research	オランダ応用科学研究機構
UV	Ultraviolet	紫外線
5G	5 th Generation	第5世代移動通信システム

IRサイトリニューアル及びIRメール配信サービス開始のお知らせ

- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」をリニューアルしました。よりアクセスしやすく、ウシオの現在～未来を知っていただけるような構成に整理しました。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように**IRメール配信サービス**を導入しました。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

Revised Point

01

個人投資家の皆さま向けコーナーを新設
シンプルでわかりやすさを意識した構成に
することで、利便性の向上を図りました。



Revised Point

02

コンテンツの新設
当社のビジネスをより具体的に感じて
いただけるコンテンツを開発しました。



Revised Point

03

IRメール配信登録機能を追加
個人投資家の皆さまにも料ニュースをいち早く
お知らせできるよう機能を追加しました。



IRメール配信登録は
こちらから



<免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

<本資料に関するお問い合わせ先>

ウシオ電機(株)

コーポレートコミュニケーション部 IR課

(03) 5657-1007

ir@ushio.co.jp

<http://www.ushio.co.jp/jp/>